

- 宮城県では、大規模土地利用型経営体の支援に向け、水稻の乾田直播栽培や湛水直播栽培等の導入を促進。
- 直播栽培においては、減水深や水温の違い、水管理のタイミングにより生育や収量、雑草の発生量等にも大きく影響することから、現地での水環境をモニタリングし、直播栽培での水管理方法等について検証。
- 直播栽培ほ場における減水深の違い、出芽後や除草剤散布時の水深等を把握することで、移植栽培並みの収量を確保。

実証の流れ

■ 県内の4経営体において、技術導入の
支援・普及指導活動を実施し、そのノウハウを県下へ普及。

■ 4経営体の所在地
仙台市、岩沼市(2か所)、栗原市

■ 検証内容
水稻直播栽培による水田センサーの活用等

■ 水稻直播栽培における**水環境を把握**し、**水管理・栽培指導への活用**を検証

■ **実証イメージ**(実線部分を中心に実施)

移植栽培ほ場と直播栽培ほ場に水田センサーを設置し、水環境をモニタリング。



実証の成果

普及指導員の活動

■ 水稻直播栽培ほ場では、**減水深が大きく、水管理作業の回数が増加**していることを確認。

■ 水稻の**生育調査とデータ確認**を実施し、生産者と普及指導員が計測データを確認・共有し、**技術指導等に活用**。

■ 乾田直播栽培においては、ほ場により、減水深の程度に差があることを確認。

■ **先端技術等に関心のある生産者等**を対象とした**現地検討会**を開催。

■ **実施経営体**では、タブレット等で**水位等を確認**しながら、**入水作業**を実施。

■ 水田センサの特徴や測定データ、減水深の状況等を紹介。

■ 直播栽培で問題となる**出芽後の入水**や**除草剤散布のタイミング**に活用し、**苗立数の安定**や**除草効果**を確認。

■ 今後の**技術指導**、**ほ場の特徴把握**などに役立つ情報として、**計測データを分析・蓄積**し、次年度以降の作付に活用。

モデル経営体



水稻直播栽培の導入



水田センサの設置



現地検討会の開催